

# ドラえもんを題材とした 日常になじむ**知能**の探索

オーガナイザ：大澤正彦(慶應義塾大学)，大澤博隆(筑波大学)  
日程：9月7日(土)

ドラえもんに触発されて  
作成した人工物と人との  
**インタラクションデザイン**  
に関する議論

“ドラえもんを作る”とは  
どのような意味合い・営みか

研究者とSF作家を交えた  
**パネルディスカッション**

SFから実世界の知能研究に  
与えられる示唆とは

(SF作家クラブの協力を得て行う)

国民的なSF「ドラえもん」  
には未来の世界から来た  
ロボットや未来の道具を  
元にした物語が描かれている

藤子・F・不二雄氏が描く世界  
“すこし”“ふしぎ”(SF)

この世界観は現実世界から  
飛躍している点が限定的である  
ストーリーは人間の欲求充足に沿い  
多くの読者に共感を得られやすい

そのため受け入れられやすい形で  
想像力のアップデートを  
はかることができる

現代の我々の生活になじむような  
知能のあり方  
インタフェースのあり方を  
議論することが可能である

本OSでは  
日常になじむ知能の探索の足がかりを作ることを目指す

